

中期目標の達成状況に関する評価結果

信州大学

平成21年3月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

I 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が不十分である

【判断理由】 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「おおむね良好」、2項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、3項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(10項目)のうち、4項目が「良好」、6項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「教養教育の教育成果に関して、専門教育に必要な基礎学力や社会人として必要とされる能力の修得」としていることについて、特色ある教育として環境配慮教育を導入し、「環境マインド」教育を進め、全キャンパスでの環境マネジメントシステム(ISO14001)の取得や特色ある大学教育支援プログラムの獲得につなげたことは、優れていると判断される。
- 中期計画「学部の専門教育と連携して、各研究科・専攻の特色及び特徴を活かし、大学院課程の教育プログラムを体系的に整備し、グローバルな視野・国際感覚と豊かな感受性、課題解決能力を備えた人材を養成する」について、教育課程の見直しを行った結果、グローバル COE プログラムや大学院教育改革支援プログラム、専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラムの獲得につなげたことは、優れていると判断される。
- 中期計画「各学部、研究科・専攻のカリキュラムが、それぞれの教育理念及び目標に即したものであるかどうかを検証し、必要に応じて改善に努める」について、多彩な対応がカリキュラムの改善につながり、教育理念の構築に反映され、Career Development 講義の開始、新カリキュラムの導入等が実施されたことは、カリキュラムの改善が積極的に推進されているという点で、優れていると判断される。
- 中期目標「全国のモデルケースとなるような、分散型キャンパスに適合する教育インフラストラクチャの整備を図る」について、e-Learning システムを全学的に導入・運用し、ネットワークを駆使した教育インフラストラクチャの整備が分散型キャンパスの弱点をカバーし、利用実績の高いネットワーク型図書館の構築や信州大学学術情報オンラインシステム(SOAR)の開発等が着実に実施されていることは、優れていると判断される。
- 中期目標「教育・生活指導全般について、学生支援体制を整備する」について、平成18年度に学生総合支援センターを設置し、担当窓口の充実を図っており、また、同センター内に「学生何でも相談室」を設置し、学生支援体制を整え、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの獲得につなげたことは、さらなる学生支援の充実を積極的に推進している点で、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画「成績評価基準を授業目標の達成度に統一した上で、単位取得率について合理的な基準を設け、全ての科目区分においてその基準値を維持する」について、合理的基準の設定が予定段階であり、取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。

- 中期計画「専門教育の効果の向上のため、より多くの学生に基礎学力を修得させるための教育指導を徹底して行う」について、体制が整った段階であり、「指導を徹底して行う」状況には至っておらず、取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。
- 中期計画「豊かな人格形成のもと、社会でのさまざまな分野で活躍しうる総合的な知力を育成する教育課程を整備する」について、総合的な知力の育成は予定段階であり、「教育課程を整備する」には至っておらず、取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。
- 中期計画「学部卒業後・大学院修了後の進路及び卒業・修了後の状態を調査して、それぞれの課程の教育目標達成状況を点検評価する」について、「教育目標達成状況を点検評価する」システムが確立、実施されているとはいえないことから、改善することが望まれる。
- 中期計画「学生教育（相談）の一環としての退学勧告制度の導入をも視野に入れた、学生の自主的な学習意欲を促進する体制の整備を図る」について、システムの構築に関する議論を行ってはいるものの、「体制の整備を図る」という段階には至っておらず、取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。
- 中期計画「各学部に「学生による授業評価」「在・卒業生に関する追跡調査」「外部評価」等の調査分析結果に基づく教育体制改善のための仕組みを設け、その機能状況を検証する」について、評価・分析室分室は設置したが、機能的な成果が不明であり、機能状況の検証にも至っていないことから、改善することが望まれる。

(特色ある点)

- 中期計画「研究者に必要な能力を育成する教育課程を編成し、実施する」について、平成17年度に工学系研究科博士後期課程に農学分野を取り入れて学際的教育課程を編成し、研究者養成を可能とするために設置した総合工学系研究科には、山岳地域環境科学専攻のような個性的な構成要素もあり、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「国内外大学間の単位互換制度の充実をさらに推進する」について、長野市内の高等教育機関との単位互換協定の締結や、長野県内7大学による「長野県内大学単位互換協定」の締結をはじめ、積極的に他大学や海外の大学と単位互換を進めていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期目標「社会人学生を積極的に受け入れる学習環境を整備する」について、工学系研究科において、諏訪・岡谷地区、塩尻地区に夜間開講のサテライトキャンパスを開講し、地域に根ざした活動を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

II 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、3項目が「非常に優れている」、3項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

- 中期目標「重点研究領域や産学官連携研究等に関する研究戦略を全学レベルで策定する」について、戦略企画室会議の下に研究戦略企画チームを設置し、『学術研究の戦略的な推進』を策定し、7領域の世界的研究拠点を目指す分野を掲げるとともに、個性的な6項目の研究分野及び小規模でも特徴ある23項目の研究分野を選定するなど、研究戦略に従った研究進展が認められ、グローバルCOEプログラム等にも採択されていることは、優れていると判断される。
- 中期目標「共同研究等の推進に必要な環境を整備する」について、装置の共用等多岐にわたる取組を実施して、共同研究を推進し、共同研究の件数・金額が増加していることは、優れていると判断される。

（改善を要する点）

- 中期計画「社会人教育や産学官連携教育研修システム及び医療人生涯研修システムの確立など、社会のニーズに迅速かつ効果的に対応しうる運営組織を検討する」について、「運営組織の検討」に関しては、産学官連携教育研修システムについての自己分析がなされておらず、中期計画の進捗状況が認められないことから、改善することが

望まれる。

- 中期計画「研究体制や研究支援体制について、学外者がピア・レビューするシステムを構築する」について、学外者によるピア・レビューも含めた恒常的な評価システムの構築には至っておらず、取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。

(特色ある点)

- 中期計画で「教員等の柔軟な再配置とその不断の点検評価システムを構築・運用する」としていることについて、教員人件費のポイント制を実施して、柔軟な再配置を可能にしていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「信州大学の特徴を活かして、製造部門（工学部、繊維学部が中心）及びゲノム・バイオ・ライフサイエンス部門（医学部、農学部、理学部が中心）を主とした二つの知的財産管理部門を設立し、その両者を効果的に運用するシステムを確立する」について、多キャンパス分散状況に合わせた知的財産管理システムを構築していることは、特色ある取組であると判断される。

III その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9項目）のうち、3項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「地域連携を全学的に支援する体制を構築する」と中期目標「地域社会の中核的研究拠点としての機能を強化させる」としていることについて、平成18年度に、戦略企画室の下に「地域連携戦略企画チーム会議（地域連携スタッフ会議）」を整備し、自治体等との一元的対応を可能としたことにより、包括連携協定が進められ、地域との多岐にわたる連携がなされ、研究成果の地域産業イノベーションへの活用も成果を上げていることは、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画「国際交流の統括的支援体制の整備・充実を図り、本学の中・長期的国際戦略を構築する」について、「国際化推進プラン策定のスキーム」を取りまとめているものの、中・長期国際戦略の構築には至っておらず、取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。

(特色ある点)

- 中期計画「長野県環境保全研究所、大町山岳博物館等との研究面での連携を進め、長野県の自然環境保護に積極的に協力する」について、平成18年度に山岳科学総合研究所を設置し、長野県の自然環境保護に協力する体制を強化し、地域性を活かした特色ある自然環境保護活動が連携して実施されていることは、特色ある取組であると判断される。